

所員活動一覽(二〇一五年一月一日～二〇一六年三月三十一日)

荒木 浩

●著書

神崎宣武・白幡洋三郎・井上章一編『日本文化事典』(共著、編集協力・項目執筆)丸善出版 二〇一六年一月 七七〇頁

●その他の執筆活動

「書評」森正人著『古代説話集の生成』『説話文学研究』五〇号 二〇一五年一〇月 一六九～一七二頁

「特集」初夢を見る―夢の解釈、その歴史』『てんとう虫』第六一五号、『Express』四八巻一号 株式会社アダック 二〇一六年一月一日 二四～二七頁

石上阿希

●著書

『へんてこな春画』青幻舎 二〇一六年二月 一九二頁

●論文

「中国養生書と艶本―『黄素妙論』の受容を中心に―」武田科学振興財団杏雨書屋編『曲直瀬道三と近世日本医療社会』武田科学振興財団 二〇一五年一〇月 七一一～七三三頁

「艶本・春画の享受者たち」国文学研究資料館編『アジア遊学一九五 もう一つの日本文学史』勉誠出版 二〇一六年三月 一三二～一四八頁

●その他の執筆活動

「解説」Q&Aで解説! 春画を楽しむための基礎知識』『美術手帖』二〇一五年一〇月号

「識者評論」国内初の本格春画展」共同通信社配信(各地方紙掲載) 二〇一五年一〇月

「インタビュー」注目株やってみなはれ』『朝日新聞』(大阪版・夕刊) 二〇一五年一〇月二二日

- 「解説 見かたをすれば、女性も楽しめます 話題沸騰! 春画の世界へようこそ」『婦人公論』二〇一五年一月二四日号
- 「対談 なぜいま春画がブームなのか(細川護熙、浦上満と)」『文藝春秋』二〇一五年一月号
- 「対談 春画の学際性をめぐって(橋本順光、矢野明子と)」『ヴィクトリア朝文化研究』一三号 二〇一五年一月
- 「応 需もともと—春画・艶本の趣向」『週刊読書人 増刊号 PONTTO』第四号 二〇一五年二月
- 「インタビュー 文化 『へんてこな春画』を出版 石上阿希さん」『東京新聞』(夕刊) 二〇一六年三月二日

磯前順一

●著書

- 『죽은 자들의 음성임: 한 일본학자가 생각하는 3.11 대재난 이후의 삶』 장윤선 옮김 글항아리 (『死者たちのざわめきある人文学者が考える 3.11 大災難以後の生』ソウル・グルハンアリ 張ユンソン) 二〇一六年三月 三〇七頁
- 『근대 일본의 종교 담론과 계보: 종교·국가·신도』 논형 옮김 사 제진숙 옮김 (『近代日本の宗教言説とその系譜—宗教・国家・神道』ソウル・ノンヒョン出版社 諸点淑訳) 二〇一六年三月 四八八頁
- 『他者論的転回 宗教と公共空間』(川村寛文共編) ナカニシヤ出版 二〇一六年三月 三九〇頁
- 論文

「暗い時代に—石母田正『中世的世界の形成』と戦後歴史学の起源—」『アーリーナ 2015』第一八号 中部大学 二〇一五年一月 一四一〜一八一頁

“Epilogue: Reimagining Early Modern Japan—Beyond the Imagined/Invented Modern Nation,” in Peter Nosco, James Ketejar, and Yasunori Kojima, eds. *Values, Identity, and Equality in Eighteenth- and Nineteenth-Century Japan*, Brill 2015, pp. 321–347.

●その他の執筆活動

- 「他者の痛み、寄り添おう 水戸出身の宗教学者磯前順一氏」『朝日新聞』(茨城版・朝刊) 二〇一五年一月九日
- 「論 人文学の死、震災と学問—人文学とは何か本質的議論を」『中外日報』二〇一五年一月二三日

「巡礼人生」(連載 月一回掲載) 『朝日新聞』(茨城版・朝刊) 二〇一五年一月二八日〜現在

「戦後日本社会と植民地主義国家」三元社編集部編『竹村民郎著作集完結記念論集』三元社 二〇一五年二月 一五一〜一五五頁

「虚空を映し出す大きな瞳」一九七〇年代の沢田研二論』『日文研』五六号 二〇一六年三月 一一〜一八頁

伊東貴之

●著書

『「心身/身心」と環境の哲学―東アジアの伝統思想を媒介に考える―』(編著) 汲古書院 二〇一六年三月 八一―八頁

『思想史から東アジアを考える』(辻本雅史・徐興慶編、共著) 日本學研究叢書21 國立臺灣大學出版中心 二〇一六年三月 三三〇頁

●論文

『「心」と「身体」、『人間の本性』に関する試論―新儒教における哲学的概念の再検討を通じて』『心身/身心』と環境の哲学―東アジアの

伝統思想を媒介に考える』汲古書院 二〇一六年三月 三二七〜三五二頁

『東アジアの『近世』から中国の『近代』へ―比較史と文化交流史/交渉史の視点による一考察―』(辻本雅史、徐興慶編、共著) 『思想史から

東アジアを考える』日本学研究叢書21 國立臺灣大學出版中心 二〇一六年三月 一三〜五九頁

“Textual criticism and exegesis in East Asia and the West: A comparative study.” 2. “The reassessment of the Qing scholarship and the Bakunatsu

empiricism” Eiji Takemura, Takayuki Ito, Hiroyuki Eto 『21世紀アジア学研究』第14号 国士館大学21世紀アジア学会 二〇一六年三月 一一―

〜一二六頁

●その他の執筆活動

「台湾発、『文学』の贈り物―欧米の中国字の翻訳・紹介も進む」『図書新聞』第三三三三号 二〇一五年一月一九日

「昭和モダニズムの気骨と火花―『竹村民郎著作集』の公刊に寄せて」三元社編集部編『竹村民郎著作集完結記念論集』三元社 二〇一五年

二月 一七八〜一八二頁

「はじめに―日文研・共同研究会と本論集の趣旨―」 i〜iv、「附録・読者のための参考文献一覧」五〜二八頁 「あとがき(共同研究会の開

催記録一覽を含む」七五五〜七七二頁 『心身／身心』と環境の哲学——東アジアの伝統思想を媒介に考える』汲古書院 二〇一六年三月

稲賀繁美

● 著書

『接触造形論——触れあう魂、紡がれる形』名古屋大学出版会 二〇一六年二月二十九日 四八四頁

● 論文

「グローバル・スタンダードの功罪——海賊史観、帝国史観、輪廻転生史観にむけて」『美術フォーラム21』第三三三号（特集：グローバルイズムの方法論と日本美術史研究——国主義と受容研究を越えて） 二〇一五年十一月三〇日 二九〜三四頁

“Between Revolutionary and Oriental Sage: Paul Cézanne in Japan,” *Japan Review* No. 28, International Research Center for Japanese Studies, 2015, pp. 133-172.

“A ‘Pirates’ View’ of Art History,” *Review of Japanese Culture and Society*, vol. XXVI, Josai University, December 2014 (sic: 2016), pp. 65-79.

「世界制覇の夢と離散状況と『日本およびアジア地域におけるグローバル・アートとディアスポラ・アート』より（前）」『あいだ』二二二二号（連載一一二） 二〇一六年一月二〇日 二四〜二九頁、「後」『あいだ』二二三三号（連載一一二） 二〇一六年二月二〇日 三七〜四四頁
「移ろいゆく形、うけつがれる生命・伊勢神宮の遷宮を迎えて」『霊性と東西文明——日本とフランス「ルーツとルーツ」対話』勉誠出版 二〇一六年三月 三三〜四二、一六一、一六二、一六三、一六四頁

「日本趣味から中世趣味へ…東洋美学の形成と近代都市文化の危機意識」『都市の近代化と現代文化：ブラジル・日本の対話から』アンドレア・ユリ・フロレス・ウルシマ、ハケル・アビサママラ、ムリロ・ジャルデリノ・ダコスタ編 CIAS Discussion Paper No. 61 京都大学地域研究 統合情報センター 二〇一六年三月 二九〜三五頁

「日本美術における猿 申年も立春を迎えるころに」『あいだ』二二四号（連載一一三） 二〇一六年三月二〇日 二六〜三一頁

「全球的な知覚から近代性を問い直す…モダニティを振り返って再定義し、デジタル化されたグローバル尺度モデルを修正する」第2日：登壇者によるパネルディスカッション『美術館はいかにグローバルになれるのか？ How Global Can Museums Be?』CIMAM（国際美術館会

議)二〇一五年次総会東京大会実行委員会(事務局:森美術館)二〇一六年三月二十五日 九〇〜一〇七頁、一四五〜一六六頁

「ジャポニスムと琳派: 裝飾再考『うつり』と『うつし』の観点から——ルイ・ゴンス、ロジェ・マルクス、エミール・ガレ、クロード・モネの周辺」石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編『大手前大学比較文化研究叢書12: 江戸文化が甦る——トロンコワ・コレクシオンで読み解く琳派から溝口健二まで』『Japonisme et École Rimpac autour de Louis Gonse, Théodore Duret, Ninagawa Noritane, S. Bing, Roger Marx et Claude Monet』*Edo retrouvée: La collection Tronquais, miroir des arts du Japon, de Rimpa à Mizuguchi* 思文閣出版 二〇一六年三月三十一日 一一三〜一五三頁、三一〜三三一頁

●その他の執筆活動

「ビーヴァーのダム——『境界を越えた知識伝播』をめぐる統合的接近法 ゲッティンゲンの会議から(1)」『図書新聞』三二二八号(連載 一五五) 二〇一五年一〇月三十一日

「『談合』と『根回し』の復権——知の技法におけるニッチと、異文化伝達における暗黙の次元・再考 ゲッティンゲンの会議から(2)」『図書新聞』三二二九号(連載一五六) 二〇一五年一月七日

「器と中身」モデルから布状組織による転写モデルへ——知識の移転をめぐる異分野交流の実験より——ゲッティンゲンの会議から(3)」『図書新聞』三三三〇号(連載一五七) 二〇一五年一月二十四日

「交易港・大連の一九二五年——一九二五年中国東北部で開催された大連勸業博覧会の歴史的考察・視聴化された満蒙」(2008) 三元社編集 部編『竹村民郎著作集完結記念論集』三元社 二〇一五年二月 四一〜四四頁

「終章——対話・等価性・虚無の天空」末木文美士編『比較思想から見た日本仏教』山喜房佛書林 二〇一五年二月二八日 五三九〜五四七頁
「Spirituality 霊性という言葉について——東西宗教対話の概念的基礎づけのために」『図書新聞』三三三九号(連載一五八) 二〇一六年一月 一三三頁

「紅茶と緑茶の争いのさなかに——岡倉天心『茶の本』再考・蛇足」『図書新聞』三二四三号(連載一五九) 二〇一六年二月二〇日

「ポッティチェリ」の《春》.. 神は細部に宿る——矢代幸雄の部分拡大写真の起源と伝播」『図書新聞』三二四四号(連載一六〇) 二〇一六年 二月二七日

「武良家の人々にまつわる私的回想——死後の世界と揺蕩う魂」『図書新聞』三二四六号（連載一六一）二〇一六年三月二二日

「制度の綻び目・通説の自堕落を追撃する『海賊史観』——竹村民郎著作集完結記念論文集刊行によせて」『図書新聞』三二四七号（連載一六二）二〇一六年三月一九日

「マエストロの光芒——ウンベルト・エーコの思い出」『図書新聞』三二四八号（連載一六三）二〇一六年三月二六日

井上 章一

● 著書

『愛の空間——男と女はどこで結ばれてきたのか』角川ソフィア文庫 二〇一五年一〇月 三五五頁

● その他の執筆活動

「私だけの紅葉名所」『サライ』二〇一五年一〇月号

「書評 大江千里著『9番目の音を探して——47歳からのニューヨークジャズ留学』（再録）」『KADOKAWAパンフレット』二〇一五年一〇月

「書評 高野秀行・清水克行著『世界の境界とハードボイルド室町時代』」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一五年一〇月一日
「座談 文化の力（永田紅らと）」『読売新聞』二〇一五年一〇月七日

“Kyoto e Kamakura—a narrativa de duas cidades na história do Japão.” *Modernização urbana e cultura contemporânea: diálogos Brasil - Japão*, Andrea Yuri, Flores Urushima, Raquel Abi-Samara, Murilo Jardim da Costa organização, Terracota, October 2015

「コンパニオンが女看守とよばれたころ——博覧会場における女性接遇員の成立と展開——」佐野真由子編『万国博覧会と人間の歴史』思文閣出版 二〇一五年一〇月一七日

「書評 中山康樹著『ウィントン・マルサリスは本当にジャズを殺したのか?』」『日本経済新聞』（夕刊）二〇一五年一〇月二二日
「すまいと日本人」『週刊現代』二〇一五年一〇月三十一日

「ブラジルのホステス（?）さん」『ブラジル特報』二〇一五年一二月号

- 「揭示板 ビアノと講演のご用命を」『週刊新潮』二〇一五年一月五日号
- 「試験問題 ゆたかな番組をささえるもの（平成二七年度日本留学試験第二回）」二〇一五年一月八日実施
- 「書評 金沢百枝著『ロマネスク美術革命』』『日本経済新聞』（夕刊）二〇一五年一月二日
- 「座談 まちのかたち（砂原庸介らと）」『読売新聞』二〇一五年一月二五日
- 「書評 中村美知夫著『サル学』の系譜』『週刊ポスト』二〇一五年一月二七日、一月四日号
- 「対談 日本人の忘れもの知恵会議（通崎陸美と）」『京都新聞』二〇一五年一月二九日
- 「書評 関雄二著『古代文明アンデスと西アジア神殿と権力の生成』』『日本経済新聞』（夕刊）二〇一五年一月三日
- 「書評 貞包英之著『消費は誘惑する 遊郭・白米・変化朝顔』』『日本経済新聞』（夕刊）二〇一五年一月二四日
- 「『国民のための歴史学』を考える——竹村民郎著作集から」三元社編集部編『竹村民郎著作集完結記念論集』三元社 二〇一五年一月
- 「回顧二〇一五 私の三冊』『日本経済新聞』二〇一五年一月二七日
- 「春画への接近をはばむもの』『ユリイカ』二〇一六年一月臨時増刊号
- 「『怪しいものたちの中世』を読む』『本の旅人』二〇一六年一月号
- 「『村の掟』をのりこえる圧倒的な自由』『週刊ポスト』二〇一六年一月八日
- 「解説 ややゆがんだ一文になってしまったのには、理由がある。」東海林さだお『さらば東京タワー』文春文庫 二〇一六年一月一〇日
- 「時代の流れ、社会の動きを文学の形で捉える』『遼』五八号 二〇一六年一月二〇日
- 「書評 アン・ヴァン・ディーンデレン、ディディエ・ヴォルカールト編著『誰がネロとパトラッシュを殺すのか』』『日本経済新聞』（夕刊）二〇一六年一月二二日
- 「対談 歴史対談、東と西——やはり、日本に古代はなかった（保立道久と）」『HUMAN』vol.08 二〇一六年一月二二日
- 「縮むまちを恐れるな』『読売新聞』二〇一六年一月三一日
- 「寺に寝泊まりした人々』『建築と社会』二〇一六年二月号
- 「ただのエキゾチシズムではない日本の美点』『SAPIO』二〇一六年二月号

- 〔試験問題 京都ぎらい(平成二八年度就実短期大学入学試験)〕 二〇一六年二月一日実施
- 〔インタビュール 観光客増も一長一短〕『京都新聞』(朝刊) 二〇一六年二月二日
- 〔書評 ジラルデッリ青木美由紀著『明治の建築家・伊東忠太 オスマン帝国をゆく』』『週刊ポスト』二〇一六年二月五日号
- 〔書評 中川右介著『オリンピアと嘆きの天使 ヒトラーと映画女優たち』』『週刊現代』二〇一六年二月六日
- 〔インタビュール 洛中人の熾烈な『いけず』 古都千年で積もった毒を書く』』『アエラ』二〇一六年二月一五日号
- 〔いわゆる『チャリズム』にこい』』『Fashion Talks..』二号 二〇一六年二月一五日
- 〔書評 松木武彦著『美の考古学』』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一六年二月一八日
- 〔京都人のあしらいぶり』』『文藝春秋』二〇一六年三月特別号
- 〔洛中洛外愛憎の図』』『望星』二〇一六年三月号
- 〔大阪の人なのに——私は『この国のかたち』をこう読んだ』』『文藝春秋』二〇一六年三月特別増刊号
- 〔対談 俳句と官能(井上曜子と)』』『季刊船団』第一〇八号 二〇一六年三月一日
- 〔特集 二〇一六新書大賞 大賞受賞者インタビュール』』『京都ぎらい』』『中央公論』二〇一六年三月号
- 〔目抜き二八人が選ぶ二〇一五年私のオススメ新書』』『中央公論』二〇一六年三月号
- 〔インタビュール ほんとうに『京都ぎらい』なんですか?』』『月刊京都』二〇一六年三月号
- 〔書評 乃至政彦著『戦国の陣形』』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一六年三月一〇日
- 〔関西の館』』①、② 御厨貴編『権力の館を考える』』放送大学教育振興会 二〇一六年三月二〇日
- 〔インタビュール 平均的大阪人論にモノ申す』』『産経新聞』二〇一六年三月三〇日
- 〔伊東忠太の妖怪世界』』『怪』二〇一六年三月三〇日
- 〔書評 小川隆夫著『ジャズメン、ジャズを聴く』』『日本経済新聞』(夕刊) 二〇一六年三月三一日
- 〔試験問題 つくられた桂離宮神話(二〇一六年度花園大学入学試験)』』二〇一六年実施日不明

牛村 圭

● 論文

「書くように話すに如くはなし」『琅』二九号 二〇一五年十月 八〜二二頁

榎本 渉

● 論文

「中世東シナ海海域における国際商人」『学際』第一号 二〇一六年一月 三〜一三頁

大塚英志

● 著書

『UNLUCKY YOUNG MEN 1』（仏語翻訳版）（藤原カムイと共著）Ki-oon 二〇一五年一〇月 三六二頁

『御宅族』的精神史 1980年代論 北京大學出版社 二〇一五年一月 三四五頁

『MISHIMA BOYS』（仏語翻訳版）（西川聖蘭と共著）AKATA 二〇一六年一月 二四〇頁

『おたく』の精神史 一九八〇年代論 星海社 二〇一六年三月 四九一頁

『UNLUCKY YOUNG MEN 2』（仏語翻訳版）（藤原カムイと共著）Ki-oon 二〇一六年三月 三八六頁

● その他の執筆活動

『現代のことば』『京都新聞』（夕刊） 二〇一五年一〇月九日

『恋する民俗学者』（中島千晴と共著）『ComicWalker』株式会社KADOKAWA 二〇一五年一〇月〜二〇一六年三月

『クウテア2』（西川聖蘭と共著）『ComicWalker・大塚英志漫画』株式会社KADOKAWA 二〇一五年一〇月〜二〇一六年三月

『解題』『ジブリの教科書 11 ホーホケキョとなりの山田くん』文藝春秋 二〇一五年一月 一九七〜二一五頁

『対談 文学のリハビリテーション 商業主義とグローバルイズム』（大澤聡と）『Pプラス26』二〇一五年一月 太田出版 五二〜七二頁

「多重人格探偵サイコ」(田島昭宇と共著)『ヤングエース』二〇一五年一月号〜二〇一六年二月号 株式会社KADOKAWA

「黒鷲死体宅配便」(山崎峰水と共著)『ヤングエース』二〇一五年一月号〜二〇一六年二月号 株式会社KADOKAWA

「まんがでわかるまんがの歴史」(ひらりと共著)『ヤングエース』二〇一五年一月号〜二〇一六年三月号 株式会社KADOKAWA

「書評『週刊ポスト九月二十五日・一〇月二日号』」『週刊ポスト』小学館 二〇一五年一月六日号

「現代のことば」『京都新聞』(夕刊) 二〇一五年十二月一〇日

「ぼくとぬえちゃんの百一鬼夜行」(樹生ナトと共著)『少年エース』二〇一五年二月号〜二〇一六年三月号 株式会社KADOKAWA

「書評 EJU OTSUKA×SEIRA NISHIKAWA 『MISHIMA BOYS』」『週刊ポスト』小学館 二〇一六年一月八日号

「機能的文学論 更新後の文学」『atプラス27』太田出版 二〇一六年二月 九六〜一一九頁

「書評 村上春樹著『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』」『週刊ポスト』小学館 二〇一六年二月五日号

「現代のことば」『京都新聞』(夕刊) 二〇一六年二月一〇日

「インタビュー 『憲法』を生き直す最後の機会」『早稲田文学』二〇一六年春号 筑摩書房 二〇一六年二月 一四一〜一四九頁

「アライアズキ、今宵も小豆を洗う。」(山崎峰水と共著)『ヤングエース』二〇一六年三月号 株式会社KADOKAWA

「書評 香山リカ著『リベラルですが、何か?』」『週刊ポスト』小学館 二〇一六年三月一八日号

郭 南燕

● 著書

『志賀直哉で「世界文学」を読み解く』作品社 二〇一六年三月 二四六頁

楠 綾子

● 論文

「国際交流基金の設立——日米関係の危機と日本外交の意識変容」福永文夫編『第二の「戦後」の形成過程——一九七〇年代における日本の政

治的・外交的再編』有斐閣 二〇一五年二月 八九〜一二八頁

●その他の執筆活動

「項目執筆 大東亜会議（一九四三年）、終戦工作（一九四五年）、ポツダム宣言受諾、降伏条約調印（一九四五年）、占領下の外務省と平和条約研究（一九四五〜五一年）、朝鮮戦争と日本の再軍備（一九五〇年）」箕原俊洋、奈良岡聰智編著『ハンドブック 近代日本外交史——黒船来港から占領期まで』ミネルヴァ書房 二〇一六年一月

「項目執筆 安保改定、カイロ宣言、再軍備（日本）、事前協議制度、サンフランシスコ講和条約、日米安全保障体制、ヤルタ会談」吉川元責任編集『平和と安全保障を考える事典』法律文化社 二〇一六年三月

「項目執筆 村山談話、河野談話、邦人テロ殺害事件、開発協力大綱」『イミダス』「外交」二〇一六年版

倉本一宏

●著書

『現代語訳小右記1 三代の藏人頭』吉川弘文館 二〇一五年一〇月 三六八頁

『蘇我氏—古代豪族の興亡』中央公論新社 二〇一五年十二月 二七二頁

『大学の日本史 1. 古代』（共著）（「列島の形成から弥生社会へ」「倭王権の成立」「東アジアと倭国」「大王と地方豪族」「飛鳥の王権」）山川出版社 二〇一六年二月 一六〜九二頁

●その他の執筆活動

「珠玉のことば」『NHKラジオ深夜便 日記手帳 2016』二〇一五年一〇月

「著者からのメッセージ」『スミセイベストブック』二〇一五年一月号 一八〜二〇頁

「思文閣出版思い出の一冊『陽明叢書 記録文書篇 御堂関白記』『日記・古記録の世界』『鴨東通信』一〇〇号 二〇一五年十二月一四、三〇頁

「私のモチーフ 中公新書 倉本一宏『蘇我氏』『週刊読書人』二〇一六年一月一日号 二頁

「蘇我氏はどこから来たのか―その実像と興亡を探る」『やまとみち』第二四四号 二〇一六年一月 九頁
 「項目執筆 記録文化財、名刺・名家・名跡、日記」『日本文化事典』丸善出版 二九六〜二九七、三〇二〜三〇三、三六八〜三六九頁 二〇一六年一月

小松和彦

● 著書

『日本の妖怪カード』（藍伽著、飯倉義之と共同監修）ヴィジョンナリー・カンパニー 二〇一五年一月一日 全四〇枚 解説書一〇二頁
 『妖怪マンガで楽しい古典』全五巻（監修）学研プラス 二〇一六年二月二三日 各八〇頁

● その他の執筆活動

- 「巻頭寄稿 世界に誇る日本の妖怪文化」『季刊ジャネット』七五号 株式会社スリーエーネットワーク 二〇一五年一〇月二五日
 「二〇一五年度春季公開講演会講演録 見えない『もの』を描く―妖怪画の起源―」『大谷學報』第九五巻第一号 二〇一五年一〇月三〇日
 「日本の妖怪文化―その特徴と魅力―」『學士會会報』第九一五号 一般社団法人学士会 二〇一五年一月一日
 「見えない『もの』を描く―鬼・妖怪・幽霊をめぐる―」愛知学院大学禅研究所編『仏教の知恵 禅の世界』大法輪閣 二〇一五年一月一日
 月一九日
 「インタビュ―『文系』役に立つ? 時間かけ新見地示す」『読売新聞』（夕刊）二〇一五年一月二五日
 「水木しげるさんを悼む 現代の妖怪文化の先導者」『日本経済新聞』（朝刊）二〇一五年一月二日
 「血を吸い脂を抜く妖怪―アンデスのピシユタコと日本の鬼」『NACT Review 国立新美術館研究紀要』第二号 国立新美術館 二〇一五年一月一日
 月一五日
 「水木しげるさんを悼むへ3」妖怪画二つの源泉 〈小松和彦〉『山陰中央新報』二〇一五年一月二四日
 「妖怪は歴史、文学、美術、芸能を横断 日本文化の特質『カワイイ』を表現」『京都新聞』二〇一六年一月一日
 「言葉の遠近法 日本文化の『媒介者』」『文明新聞』二〇一六年一月二七日

「追悼水木しげるさん 豊かな妖怪文化蘇らせた」『西日本新聞』 二〇一六年一月二七日

「言葉の遠近法 水木しげるファンの心境」『公明新聞』 二〇一六年二月二四日

「妖怪から怪獣、そしてゴジラへ」天理大学考古学・民俗学研究室編『天理大学考古学・民俗学シリーズ2 モノと凶像から探る妖怪・怪獣の誕生』勉誠出版 二〇一六年三月二〇日

「言葉の遠近法 修二会と鬼追い」『公明新聞』 二〇一六年三月二三日

フレデリック・クレインズ

●論文

「江戸期における物心二元論の流入と蘭学者の心身観」伊東貴之編『心身／身心』と環境の哲学―東アジアの伝統思想を媒介に考える』汲古書院 二〇一六年三月 三六九〜三八四頁

佐野真由子

●著書

『万国博覧会と人間の歴史』（編著）思文閣出版 二〇一五年一〇月 七五八頁

●その他の執筆活動

“Book Review: *Commerce and Culture at the 1910 Japan-British Exhibition: Centenary Perspectives*, Edited by Ayako Hotta-Lister and Ian Nish.” *Japan Review*, No. 28, December 2015, pp. 261–262.

「グローバルとローカルから見る幕末明治」『日本歴史』第八一―一〇号 二〇一五年十二月 一九〜二二頁

「文化と文化の出会いとところで」『京都華頂大学華頂短期大学学報』通巻第二〇号 二〇一六年三月 五〜二〇頁

瀧井一博

● 論文

「博覧と衆智―渡辺洪基と萬年会の目指したものの―」佐野真由子編『万国博覧会と人間の歴史』思文閣出版 二〇一五年一〇月 四〇七～四二五頁

● その他の執筆活動

「政治学の古典を読む(二三) 政治的『敵』概念の逆説(カール・シュミット著、田中浩・原田武雄訳『政治的なものの概念』未来社 一九七〇年)」「究』第五六号 ミネルヴァ書房 二〇一五年一月号 四四～四五頁

「『阪神間モダニズム再考』を読んで」三元社編集部編『竹村民郎著作集完結記念論集』三元社 二〇一五年二月 一三九～一四一頁

“Book Review: *Failed Democratization in Prewar Japan: Breakdown of a Hybrid Regime*, written by Harukata Takenaka, Stanford: Stanford University Press, 2014.” *Social Science Japan Journal*, 19(1), 2016, pp. 99-101

「政治学の古典を読む(一四) 文明という敵(サミュエル・ハンチントン著、鈴木主税訳『文明の衝突』集英社 一九九八年)」「究』第五九号 ミネルヴァ書房 二〇一六年二月号 四四～四五頁

坪井秀人

● 著書

(編・共著) *Wort-Bild-Assimilationen: Japan und die Moderne*, Berlin: Gehr. Mann Verlag, Simone Müller, Iō Toru, Robin Rehm, March 2016, 256 pages.

● 論文

「二十世紀日本語詩を思い出す」『現代詩手帖』思潮社(連載中) 第五八卷一〇号(連載第七) 二〇一五年一〇月 一四八～一五七頁、第五八卷一一号(連載第八) 二〇一五年一月 一三八～一四七頁、第五八卷一二号(連載第九) 二〇一五年二月 一三八～一四四頁、第五九卷一号(連載第一〇) 二〇一六年一月 一三六～一四二頁、第五九卷二号(連載第一一) 二〇一六年二月 一三六～一四三頁、第五九卷三号

(連載第二二)二〇一六年三月 一三二〜一三八頁

●その他の執筆活動

「項目執筆 大東亜文学者大会、日本文学報国会、日本浪漫派、大日本歌人協会、辻詩集、安西冬衛、細雪」「アジア・太平洋戦争辞典」吉川弘文館 二〇一五年一〇月

ジョン・ブリン

●論文

“Undermining the myths: Habian's Shintō critique,” James Baskind and Richard Bowring eds. *The Myōtei dialogues: a Japanese Christian critique of native traditions*, Brill, 2015, pp. 36–42.

「近代の宮中儀礼：天皇に求められた政治」明治維新史学会編『講座明治維新11―明治維新と宗教・文化』有志舎 二〇一六年三月

●その他の執筆活動

「問題提起：これまでの歴史をふりかえって」『キリスト教と神道との対話―二つの宗教が探る強調への道筋』NPO法人神道国際学会 二〇一五年十一月 一七〜二二頁

“On Shinto,” James Baskind and Richard Bowring eds. *The Myōtei dialogues: a Japanese Christian critique of native traditions*, Brill, 2015, pp. 147–165.

「Japan Review 三〇号をむかえて（その1）」『日文研』五六号 二〇一六年三月 五〇〜五二頁

“Yasukuni (Tokyo shrine to the Japanese military war dead),” John Stone et al. eds., *The Wiley Blackwell Encyclopedia of Race, Ethnicity, and Nationalism*, Wiley Blackwell, 2016

細川周平

●論文

「戦前日本のルンバ略史」『現代風俗学研究』第一六号 二〇一五年 三〜一二頁

“A literature moderna dos imigrantes japoneses nos folhetins de jornais entre 1920 e 1930” (translation by Yuko Takeda P. de Arruda), Andrea Yuri Flores Urushina, Raquel Abi-Sanara & Murilo Jardim da Costa, eds. *Modernização Urbana e Cultura Contemporânea: Diálogos Brasil-Japão*, Terraçota, São Paulo, 2015, pp. 43-68

“Key Tunes at the Heart of Japan’s Jazz Age: Americanism and its Indigenization,” *Situations*, vol. 9 No. 1, 2016, pp. 49-64

「日系ブラジル文学のモダニズム」『都市の近代化と現代文化—ブラジル・日本の対話から』アンドレア・ユリ・フロレス・ウルシマ、ハケル・アビサツマラ、ムリロ・ジャルデリン・ダコスタ編 CIAS Discussion Paper No. 61 京都大学地域研究統合情報センター 二〇一六年三月 二二〜二八頁

●その他の執筆活動

「書評 いのちの始まりの寓話 いししんじ著『悪声』『新潮』二〇一五年一〇月号 二八八〜二八九頁

「達者で もったいない語辞典」『読売新聞』（夕刊）二〇一五年一〇月二日

「書評 松村洋著『日本鉄道歌謡史 全二巻』みずぎ書房」『パブリックシャーズ・レビュー』第四一号 二〇一五年一二月一五日 三頁

「阪神間モダニズムの片隅に生きて—家族の肖像」三元社編集部編『竹村民郎著作集完結記念論集』三元社 二〇一五年一二月 一〇九〜一一二頁

「近況報告」『ブラジル俳文学』三七九号 二〇一五年一二月 三二頁

「達者で」『ゆるんていら』四七号 二〇一五年一二月 七頁

「CD解説 ウニタ・ミニマ『世界の縁（へり）』』二〇一六年一月

「CD解説 修業時代の服部良一」『ニッポンジャズ水滸伝 人之巻』二〇一六年二月 五九〜六二頁

「ブラジル日系文学五〇年の筆跡」『ブラジル日系文学』第五二号 二〇一六年三月 一五〜一六頁

“Japan Meets the Boss of the Blues”. *The Common Reader: A Journal of the Essay*, Washington University in St. Louis, vol. 1/1, 2016, pp. 87-99

松田利彦

● 論文

“Les KEMPEITAI et l'expansion du Japon impérial à Taïwan, en Corée et en Chine au début du XXe siècle.” Arnaud Houté et Jean-Noël Luc eds., *Les Gendarmes dans le monde, de la Révolution française à nos jours*, Paris: Presses universitaires Paris Sorbonne, February 2016, pp. 267-282

森 洋久

● 著書

『増補改訂 森幸安の描いた地図』日文研叢書54（辻垣晃一と共編著）臨川書店 二〇一六年三月 四六四頁

山田奨治

● 論文

「解題『バクリ経済』を読んで」カル・ラウスティアラ、クリストファー・スプリグマン（山形浩生、森本正史訳）『バクリ経済 コピーはイノ

ベーションを刺激する』みず書房 二〇一五年二月 三五一〜三五六頁

「『誤読』される禅」『美術手帖』二〇一六年一月号 一〇六〜一一五頁

● その他の執筆活動

「インタビュー 五輪エンブレム問題の教訓は——バクリは絶対悪ならず」『京都新聞』（朝刊）二〇一五年二月五日

「コメント オリジナル？（2）エンブレム 業界と社会『常識』にズレ」『朝日新聞』（朝刊）二〇一六年一月五日

「インタビュー 『嫌儲』が非難の境目」『朝日新聞』（デジタル版）二〇一六年一月五日

「インタビュー オープンアクセス・ポリシー事情」『月刊DRF』第七四号 二〇一六年三月

マルクス・リュッターマン

● 論文

“Von Koshoro an Oma. Anmerkungen zum Kindlichen an Gestalt und Funktion ein es japanischsprachigen Briefleins aus Uebersee (17. Jh.),” in: Michael Kinski, Harald Salomon, Eike Grossmann (ed.), *Geschichte der Kindheit und der Kinthe itsbilder in Japan. Eine Einfuehrung*. Wiesbaden: Harrassowitz 2015, pp. 191-213. [こしよろのカナぶみ——書状に反映している近世の幼児性について(子供の教育とじゃがたらぶみとの関連を明らかにした文書および記録の分析・解釈) 独語論文集『日本史における幼時そのものおよびその表彰』中] 二〇一五年十二月

● その他の執筆活動

「国際社会のアキレス腱——『廢娼運動』とユディトたちの今後」三元社編集部編『竹村民郎著作集完結記念論集』三元社 三三〓三六頁 二〇一五年十二月

劉 建輝

● 論文

『満洲』幻想の生成とその消滅」菊部直・黒住真・佐藤弘夫・末木文美士・田尻祐一郎編『日本思想史講座5—方法』ペリかん社 二〇一五年十二月

「馬礼遜的『英華字典』編纂与一九世紀初在華新教傳教士的文化活動」(傳曉との共著) 東北師範大学日本研究所・外国語学院編『外国問題研究』第二一八期 二〇一五年十二月

「見られる『日本』から見る『日本』へ——日文研所蔵『外地』関連絵葉書について」『HUMAN』vol. 08 平凡社 二〇一六年一月

● その他の執筆活動

「帝国の光と闇への探求——『竹村民郎著作集I〜V』を読んで感じたこと」三元社編集部編『竹村民郎著作集完結記念論集』三元社 二〇一五年十二月